

鳥獣被害防止総合支援事業及び鳥獣被害防止緊急捕獲活動支援事業の評価報告(令和元年度報告)

1 被害防止計画の特徴等

ニホンジカ、ニホンザル、カワウ、イノシシ、タヌキ、ヌートリアを対象としており、鳥獣被害対策実施隊員による有害捕獲を積極的に実施する。
また、生息環境管理として雑木林の刈払いを実施し、有害鳥獣が侵入しにくい集落づくりを実施する。

2 事業効果の発現状況

狩猟免許取得を推進したことで、免許取得者が増加した。また、捕獲技術に関する講習会を実施し、捕獲技術の向上が見られ、捕獲数が増加した。
雑木林の刈払いなどの整備を行うことで、農地や集落への侵入防止に効果がみられた。

3 被害防止計画の目標達成状況

タヌキ、ヌートリアについては未達であったが、全体では達成できている。

4 各事業実施地区における被害防止計画の達成状況

事業実施主体名 (構成市町名)	対象地域	実施年度	対象鳥獣	事業内容	事業量	管理主体	供用開始	利用率・稼働率	事業効果	被害防止計画の目標と実績						事業実施主体の評価	第三者の意見		
										被害金額(万円)			被害面積(a)						
										目標値	実績値	達成率	目標値	実績値	達成率				
小豆島町	小豆島町 全域	平成29年度 (当初分)	イノシシ(成獣)	有害捕獲	630	-	-	-	狩猟免許取得者の増加及び捕獲技術の向上により、被害軽減に結びついている。	297	169	211.2%	17.0	6.3	277.0%	獵友会、関係団体等と連携し、被害防止対策を実施している。 狩猟免許取得者の増加や捕獲技術の向上により、捕獲数が増加している。 被害は減少傾向にあるが、今後も体制強化を図り、各種被害対策を継続して実施することで被害を軽減させる。	ニホンジカについては、捕獲を中心とした被害対策の効果が表れていると思うので、今後も継続してほしい。サル、イノシシについては、被害金額及び面積は減少しているので、引き続き対策を継続するとともに、侵入防止柵の点検・管理及び生息環境管理をバランスよく実施することが効果的と思われる。		
			イノシシ(幼獣)		100														
			ニホンザル(成獣)		70														
			ニホンザル(幼獣)		24														
			ニホンジカ(成獣)		580														
			ニホンジカ(成獣)		60														
		平成29年度 (補正分)	イノシシ(成獣)		180														
			イノシシ(幼獣)		1														
			ニホンザル(成獣)		1														
			ニホンジカ(成獣)		180														
		平成30年度	イノシシ(成獣)		1231														
			ニホンザル(成獣)		68														
			ニホンジカ(成獣)		880														
		令和元年度	イノシシ(成獣)		1496														
			ニホンザル(成獣)		55														
			ニホンジカ(成獣)		652														

注1:被害金額及び被害面積の目標欄については対象鳥獣及び目標値を記し、これに合わせて他の欄も記載する。

2:業効果は記載例を参考とし、獣種等ごとに事業実施前と事業実施後の定量的な比較ができるよう時間軸を明確に記載の上、その効果を詳細に記載すること。整備事業を行った場合、捕獲効率の向上にどのように寄与したかも必ず記載すること。

3:「事業実施主体の評価」の欄には、その効果に対する考察や経営状況も詳細に記載すること。